

2019 年度

グローバルプロジェクト（教育分野）実績報告書

別添資料②

（「地域政策系 5 大学インターゼミナール」への参加を通じた
地域分析技法の習得：大津 晶）

国立大学法人 小樽商科大学

【本件に関するお問い合わせ先】
小樽商科大学教務課教務企画係
TEL: 0134-27-5236
E-Mail: k-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp

2019年度グローバルプロジェクト(教育分野)実績報告書 別添資料②目次

No.	プロジェクト名	代表者
	「地域政策系5大学インターゼミナール」への参加を通じた地域分析技法の習得	大津 晶
6	<p>日本海側5大学(小樽商科大学、東北公益文科大学、京都産業大学、福知山公立大学、島根大学)で共催する「地域政策系5大学インターゼミナール」に参加し、地域政策を研究する学生による共同演習を通じて学生の地域への理解を深めるとともに、政策分析・提案の実践技法を習得する。</p> <p>(別添資料)</p> <p>1.5大学インターゼミナール合宿(学生政策コンペ)2019 のしおり 2.NPO法人による公共施設の運営 ～綾部市里山交流研修センター(旧・豊里西小学校)での経験から～ 3.新町商店街を活用した異世代間交流 4.駅からはじまる福地山のスイーツ×歴史 5.福知山ばあのふれぜん 6.老富町の交通危機を救え！ 7.次世代交通システムは水源の里を救うのか？ 8.綾部 ぱー 9.DLプロジェクト</p>	

5 大学インターゼミナール合宿 (学生政策コンペ) 2019 のしおり

大学名

名 前

○目的

- ・ 大学や地域の枠を超えてフィールドワーク・調査・交流できる環境を創り、学生が「他流試合」の中から成長できる機会を創造する。
- ・ 毎年度フィールドを変え（北海道・山形・京都・島根）、日本海側の地域の現状を知る機会を作るとともに、「よそ者・若者」ならではの発想から創発された知や政策アイデアを地域に提供する。
- ・ 他大学ゼミ（教員や学生）の事例や取り組みを知る機会を作り、「斜めの関係」を構築するとともに、自大学や自ゼミの今後の活動に生かす。

○日時

2019年8月28日（水）～30日（金）

○今年度のフィールド

京都府福知山市・綾部市

○宿泊先

綾部市里山交流研修センター

（住所）京都府綾部市鍛冶屋町茅倉9番地

（URL）<https://ayabesatoyama.net>

○今年度のテーマ

「もう一つの京都（森の京都）」の課題を発見し、解決案（政策案）を考える」

○キーワード

福知山：水害、明智光秀（大河）、教育、商都、鉄道、肉、スイーツ、子育てなど

綾部：水源の里、半農半X、AtoZ、大本教、合気道、グンゼ、平和、バラ、ネジなど

○内容（概要）

（1日目）集合、自己紹介・アイスブレイク、BBQ

（2日目）ミニレクチャー、フィールドワーク・調査（福知山・綾部）

（3日目）政策提言、講評、解散

○参加者一覧

5 大学インターゼミナール合宿（学生政策コンペ）2019 参加者名簿（8月16日現在）

名前	性別	所属・学年など	参加	宿泊	部屋	備考
杉岡 秀紀	男	地域経営学部准教授	1	0		
小林 拓真	男	地域経営学部4年生	1	1	3年生室	
古泉 伊織	男	地域経営学部4年生	1	1	3年生室	3日目欠席
田中 友季也	男	地域経営学部4年生	1	1	3年生室	
大橋 拓実	男	地域経営学部3年生	1	1	1年生室	
柏倉 悠人	男	地域経営学部3年生	1	1	1年生室	
黒熊 航平	男	地域経営学部3年生	1	1	1年生室	
後藤 英智	男	地域経営学部3年生	1	1	1年生室	
近藤 天音	女	地域経営学部3年生	1	1	5年生室	
多川 隼	男	地域経営学部3年生	1	1	1年生室	
西宮 瑠美	女	地域経営学部3年生	1	1	5年生室	
藤原 尚大	男	地域経営学部3年生	1	1	1年生室	
			12	11		
滋野 浩毅	男	現代社会学部現代社会学科教授	1	1	幸喜山荘	
山名 恒輝	男	現代社会学部現代社会学科3年生	1	1	2年生室	
西山 功祐	男	現代社会学部現代社会学科3年生	1	1	2年生室	
城戸 優希	男	現代社会学部現代社会学科3年生	1	1	2年生室	
寺井 彰	男	現代社会学部現代社会学科3年生	1	1	2年生室	
芦田 晴哉	男	現代社会学部現代社会学科3年生	1	1	2年生室	
吉田 匠	男	現代社会学部現代社会学科2年生	1	1	2年生室	
谷口 優大	男	現代社会学部現代社会学科2年生	1	1	2年生室	
水島 遥	女	現代社会学部現代社会学科2年生	1	1	5年生室	
			9	9		
高田 晋史	男	元学術研究院農学生命科学系助教/ 神戸大学大学院農学研究科助教	1	1	幸喜山荘	
上田 航平	男	法文学部法経学科4年生	1	1	3年生室	
栗原 祐也	男	教育学部学校教育課程1類3年生	1	1	3年生室	
平野 萌	女	総合理工学部建築デザイン学科2年生	1	1	5年生室	
田邊 佑季	女	生物資源学部農林生産学科2年生	1	1	5年生室	
秦 琴乃	女	生物資源学部農林生産学科2年生	1	1	5年生室	
			6	6		
大津 晶	男	商学部 社会情報学科/学長特別補佐	1	1	幸喜山荘	3日目早退
浅井 悠花	女	商学部商学科3年生	1	1	5年生室	
加藤 叶	女	商学部企業法学科3年生	1	1	5年生室	
川端 瑞輝	男	商学部社会情報学科3年生	1	1	4年生室	
讃岐 藍	女	商学部商学科3年生	1	1	5年生室	
四宮 颯人	男	商学部社会情報学科3年生	1	1	4年生室	
田島 茉佑子	女	商学部商学科3年生	1	1	5年生室	
谷越 大輔	男	商学部商学科3年生	1	1	4年生室	
佃 深史	男	商学部社会情報情報学科3年生	1	1	4年生室	
中野 彩香	女	商学部社会情報学科3年生	1	1	5年生室	
蓮井 里奈	女	商学部社会情報学科3年生	1	1	5年生室	
藤原 諒弥	男	商学部商学科3年生	1	1	4年生室	
山田 陸	男	商学部商学科3年生	1	1	4年生室	
			13	13		
鎌田 剛	男	公益学部公益学科准教授	1	1	幸喜山荘	
阿部 文音	女	公益学部公益学科3年生	1	1	5年生室	
志奇 匠	男	公益学部公益学科3年生	1	1	3年生室	
			3	3		

43 42

男30、女13 男29、女11

(敬称略、順不同)

○ プログラム（詳細）

	8月28日（水）	8月29日（木）	8月30日（金）
7:00		起床 朝食、自由時間	起床 朝食、チェックアウト
8:00			
9:00		講義①（塩見特任授）	政策発表（学生企画⑤） （発表15分、質疑5分）
10:00		講義②（福知山市大学政策課）	
11:00		グループ分け（学生企画③）	審査、結果発表、表彰
12:00		昼食（フィールド移動後に各グループ毎で） フィールドワーク・調査	記念撮影、解散
13:00		【綾部】3グループ程度 *企画：滋野ゼミ	
14:00			
15:00		【福知山】3グループ程度 *企画：杉岡ゼミ	
16:00	集合、チェックイン アイスブレイク（学生企画①）		
17:00	BBQ準備	里山ねっと・あやべ集合 各グループまとめ	
18:00	BBQ	夕食	
19:00	片付け 風呂、自由時間	中間発表（学生企画④）	
20:00	教員と学生による大学紹介 （学生企画②）	終わり次第解散	
21:00	終わり次第解散	グループ活動	
22:00	就寝		

○フィールドワークについて

(綾部)

綾部主要箇所、志賀郷の見学、移住者ヒアリング

(福知山)

福知山駅、市民交流プラザ、御霊神社、広小路通り、治水記念館、福知山城、公立大まちかどキャンパスなどから適宜。

※ あとはチームのニーズに合わせてアレンジします。

○ 審査基準

①課題把握の適切性	20点	②チームワーク	20点	③プレゼン力	20点
④オリジナリティ	20点	⑤実現可能性	20点		<u>計100点</u>

○ 賞

- ①最優秀賞（点数が一番高かったチーム） 1チーム
- ②優秀賞（点数が二番目に高かったチーム） 1チーム
- ③審査員特別賞（点数にかかわらず、内容が面白かったチーム） 1チーム

※ 副賞は、地域特産品になります。

○ 参加大学および人数

- ・ 福知山公立大学 : 学生 11名 (3年生 8名、4年生 3名)、教員 1名 計 12名 (幹事校)
- ・ 京都産業大学 : 学生 8名 (2回生 3名、3回生 5名)、教員 1名 計 9名 (幹事校)
- ・ 小樽商科大学 : 学生 12名 (全て3年生)、教員 1名 計 13名
- ・ 東北公益分科大学 : 学生 2名 (全て3年生)、教員 1名 計 3名
- ・ 島根大学 : 学生 5名 (2～4年生)、教員 1名 計 6名

合計 43名

【その他】

- ・ 駐車可能台数は一般 24、福祉 2、マイクロバス 2 です。
- ・ タオル (大・小とも) ・ 寝間着 (パジャマ) ・ 歯ブラシ ・ 歯みがき粉 ・ かみそり (ひげそり) などの無料提供はありません。これらはご持参ください。
- ・ コンビニはありませんが、隣に地元住民が出資しあって自主経営で地域の売店「空山の里」があります。野菜や飲物、菓子類のほか、地酒やビールなど、酒類販売も行なっています (月～金は 9:00～17:00 営業)。自動販売機はあります。
- ・ 発表スライドづくりなどで使うパソコンは個人のものご持参ください。
- ・ フリーwi-fiがありませんので、個人のwi-fiなどで通信環境の確保をお願いします。

○施設外観



綾部市里山交流研修センター
2017年4月以降のイメージ

むぎ設計工房 提供

全景①



全景②



もりもりホール



幸喜山荘



浴場



BBQ サイト



宿泊部屋①



宿泊部屋②



公立大まちかどキャンパス①



公立大まちかどキャンパス②

○宿泊棟部屋割（学生 40 名）



○宿泊棟部屋割（教員 4 名）

幸喜山荘 間取図(1階)



【一人当たりの予算】

28 日宿泊	3240
29 日宿泊	3240
28 日夜	1500
29 日朝	864
29 日夜	1296
30 日朝	864
お菓子代	496

11500

※ 会場代などは福知山公立大学、BBQ は京都産業大学が財政支援（補助）します。

○学生企画（詳細）について

【学生企画1】 司会：公立大（西宮）

（1）グループ分け（8グループ）

- ・ 大学ごとにくじ引き（1グループ5～6名）を行う。
- ・ なるべくスピーディーに行う。

（2）自己紹介タイム（グループ内で）

- ・ A4の用紙を4つに折る。
- ・ 左上に名前（呼んでほしい名前）。右上に出身地。左下にサークルまたは趣味。右下に意気込み。←変更可

（3）アイスブレイク（チーム対抗ジェスチャーゲーム）

- ・ グループで分かれて代表者1名がジェスチャーをし残りのメンバーでそれに答える。
- ・ 正解したら次の代表者がジェスチャーをする…という繰り返しで、一番早く終わったチームの勝ち。（1ゲーム5. 6題出題予定）
- ・ 時間が余りそうであればもう1ゲーム行う。

（4）その後のBBQのグループは2グループが一緒になって食べる（計4グループ）。

【学生企画2】 司会：東北公益分科大学（阿部）

（1）発表の準備

- ・ 各大学には今現在までのゼミの活動及び大学の紹介のための10枚程度のスライドを事前に作成をお願いします。

（2）発表について

- ・ グループ順は当日のお楽しみ。（各大学のリーダーは把握しています）
- ・ 事前に作成してきたいただいたスライドを利用して発表を行っていただく。まず初めに学生によるゼミの発表（研究テーマ、直近の活動内容）の後、担当教員による大学紹介（補足）を行ってもらう。人数の多い大学の場合には、それぞれに分かれて行っていただいてもかまわない。

（3）質疑応答

- ・ ゼミの活動内容についての質疑応答を各大学3～5分程度行いたい。

【学生企画3】 司会：島根大（秦）

（1）フィールドワークのグループ数

- ・ 福知山グループ 3グループ程度
- ・ 綾部グループ 3グループ程度 に分かれる。

(2) 分け方

- ・ 福知山と綾部 希望をとる。
※ うまく分かれなない場合は公立大と京産大のメンバーで調整する

【学生企画4】司会：小樽商科大学（佃・藤原）

(1) 発表順の決定

- ・ 夕食よりも前の時点で、担当する小樽商科大学側でくじ等によりランダムに6グループの順番を決定し、各グループに通知する。

(2) 中間発表

- ・ 時間については、最終発表に準拠し、最大で15分とするが、準備段階での発表であるということを加味し、15分に超えない限りでは自由とする。
- ・ 発表順については、あらかじめ決定したものに基本的には従うものとするが、ある程度各グループの進捗状況をふまえてグループ間での合意の上、順番を前後させるなど、柔軟に対応する。

(3) 質疑応答

- ・ 翌日の最終発表同様に、質疑応答の時間を1グループにつき5分程度設ける。最終発表へとつながる貴重な他グループからの意見収集の場であると考える。

【学生企画5】司会：京産大（山名・西山）

(1) 発表の最終確認、準備

- ・ チェックアウトを済ませてから発表時間である9時までの時間帯をグループでの最後の打ち合わせとして活用する。

(2) 順番決め（綾部班 or 福知山班）

- ・ 発表開始の10分ほど前に司会者がくじでどの3グループが最初に発表するかを決定。

(3) 前半3グループ発表

- ・ くじの結果、前半となったグループから発表。
- ・ より緊張感を出すために、その都度くじを引き3グループ内の順番を決める。
- ・ 発表時間は1グループ15分、質疑応答が5分とする。

(4) 後半3グループ発表

- ・ 同上

(5) 審査、結果発表、表彰

- ・ 結果が良かったグループには景品を用意する。

Memo

【緊急連絡先】 里山ねっと・あやべ事務局 0773-47-0040、杉岡(公立大) 090-8168-6119

NPO 法人による 公共施設の運営

～綾部市里山交流研修センター
(旧・豊里西小学校)での経験から～

特定非営利活動法人

里山ねっと・あやべ 事務局長

朝倉 聡

小さな
第3回 **アースデイ** in 里山ねっと・あやべ

令和元年 **7月6日** (土) 10時~16時
マイ骨留、エコバックを持って里山ねっとへ!

今年のテーマ「**温故知新**」

昔のモノ・コトを見直して、未来のために今に活かそう!

Tシャツアップ作り (無料体験)
もう着ないTシャツ※を持ってきて
(※綿100%が混紡のみ) 編み物用糸を作ろう!



資源回収

新聞、雑誌、段ボール、アルミ缶
1kg以上で、当日会場で使える
100円券をプレゼント。

多様な環境

育てて増える種を分けて下さい。
皆でシェアし、育てて増やし、
来年またもって来よう!

和装のご来場者様に

当日会場で使える**100円券**をプレゼント。
浴衣、甚平、作務衣、はっぴ、道着、
もんぺでアースデイへ!

アースデイ特別講演会
藤田 美保さん (真面目こどもの森学園校長)
「持続可能な発展のための教育について」
produced by 綾部里山交流大学

主催: 小さなアースデイ実行委員会 協賛: 住友理工株式会社
e-mail: earthday@ayabe.jp.org

協力: 里山ねっと・あやべ、綾部里山交流大学、田舎生活研究所

後援: FMIいかる、あやべ市民新聞、綾部市 定住交流部 定住・地域政策課

木育コーナー

オーガニック
マルシエ

心身共に
健やかにエリア

使い捨て
に物申す



自然の恵みを体感するイベント「小さなアースデイーン里山ねっと・あやべ」が6日、綾部市級治屋町の里山交流研修センターであった。特産品の販売会や、地元産和紙を使った七夕の短冊づくりなどがあり、多くの家族連れでにぎわった。

府北部の有志でつくる

実行委員会が主催し、今

年で3回目。地元農家や

大学生グループなど約50

の団体・個人が出店し

た。

黒谷和紙の短冊に七夕の願い込め

綾部で自然体感イベント

会場には、無農薬野菜やパンの販売所のほか、古くなったTシャツを編み物用の糸に加工する体験コーナーもあり、来場者はリサイクルの大切さを学んでいた。

七夕にちなみ、綾部特産の黒谷和紙の短冊に願い事を書くコーナーもあり、「家族で仲良く過ごせますように」「世界中の生き物が幸せに暮らせますように」など、さまざまな願い事がつるされていた。

(増山博)



七夕に合わせて会場内に設けられたササに、願い事を書いた短冊を飾る人たち(綾部市級治屋町・里山交流研修センター)



タイムテーブル

時間	内容	会場	講師
10:00	オープニング	会場	
10:30	講演1	会場	
11:00	講演2	会場	
11:30	講演3	会場	
12:00	講演4	会場	
12:30	講演5	会場	
13:00	講演6	会場	
13:30	講演7	会場	
14:00	講演8	会場	
14:30	講演9	会場	
15:00	講演10	会場	
15:30	講演11	会場	
16:00	講演12	会場	
16:30	講演13	会場	
17:00	講演14	会場	
17:30	講演15	会場	
18:00	講演16	会場	
18:30	講演17	会場	
19:00	講演18	会場	
19:30	講演19	会場	
20:00	講演20	会場	
20:30	講演21	会場	
21:00	講演22	会場	
21:30	講演23	会場	
22:00	講演24	会場	
22:30	講演25	会場	
23:00	講演26	会場	
23:30	講演27	会場	
24:00	講演28	会場	
24:30	講演29	会場	
25:00	講演30	会場	

技むすび館

森もりーる













ゼロの状態から畑に整備

— 里山ねっとが新プロジェクト —



森もりホール隣の広場に新たに生まれた畑にマルチシートを敷くオムロン従業員ら(綾治園町で)

綾治園町の里山山交際研修センターで今月から、「ゼロ農」と名付けた新プロジェクトが始まった。これは敷地内の一角にある赤土の広場(約100平方メートル)を「ゼロ」の状態から畑に整備し、交際の場にしていくというものである。同センターの指定管理団体であるNPO法人里山ねっと・あやべの呼び掛けに応じた府立農業大学校や京都産業大学、オムロン綾部事業所、あやべホランティア(綾治園町)などの協力を得て、22日から作業が始まった。

【高崎健太】

オムロン従業員や農大校などが協力

京産大とも連携

この広場は、2011年8月豪雨に伴う裏山の土砂崩れで破損し解体された旧体育館の敷地の一部。体育館跡地には「森もりホール」が建てられたが、南側の一部が赤土のまま広場として残った。

そこで里山ねっと・

あやべは、この広場の活用方法を模索する中で、ゼロから畑を作るプロジェクトを思いついた。

赤土のままでは野菜が育つための養分がないため、崩れた裏山の材木をチップに粉砕し

て発酵させた土や竹炭、地元酪農家の牛糞

たい肥などを混ぜて畑の土のもとを作ることになった。22、24の3日間には、あやべホランティア総合センターの仲介でオムロン綾部事業所のホランティアが毎日25人ずつ訪れ、土を運んだり耕したりする作業に汗を流した。

そして作業最終日となった24日には、府立農業大学校で野菜系コースを専攻する2年生2人も加わり、ふかふかの畝が3本ほど完成。最後はマルチシートで覆った出来たての畝に、4種類のサツマ

イモのツルを挿した。

里山ねっとでは今後、同センターを学生のアピールドワークの拠点「緩むすび畑」と位置付ける京都産業大学とも連携して畑の活用を進めていく予定。

事務局長の森慎一さんは「予定して野菜が収穫できるようになるには地道な努力が必要だが、定期的に通って下さる企業や学生との関わりの中から更に色々な輪が広がり、都市農村交流のための体験農園の可能性も改めて思えてくるんじゃないか」としている。

【高崎健太】

【本日の内容】

(1)里山ねっと・あやべ
(綾部市里山交流研修センター
指定管理者)について

(2)NPO としての里山ねっと・あやべを
めぐる検討課題

どんな施設？

「豊里西小学校」1999年3月閉校
⇒「綾部市里山交流研修センター」
里山ねっと・あやべが運営（指定管理）





宿泊室



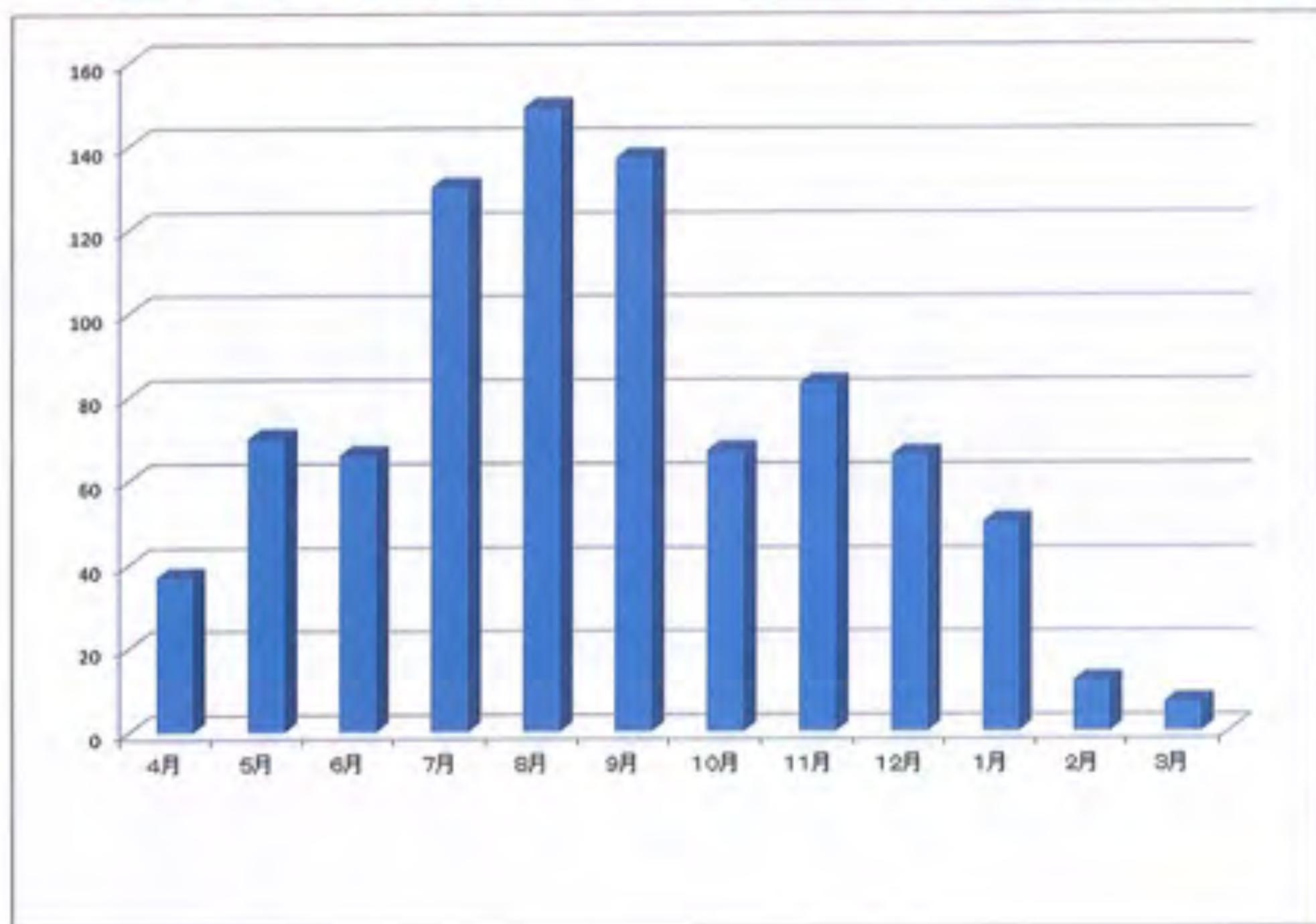
研修室 (旧教室)







綾部市里山交流研修センター 月別宿泊者数 (2016年度)





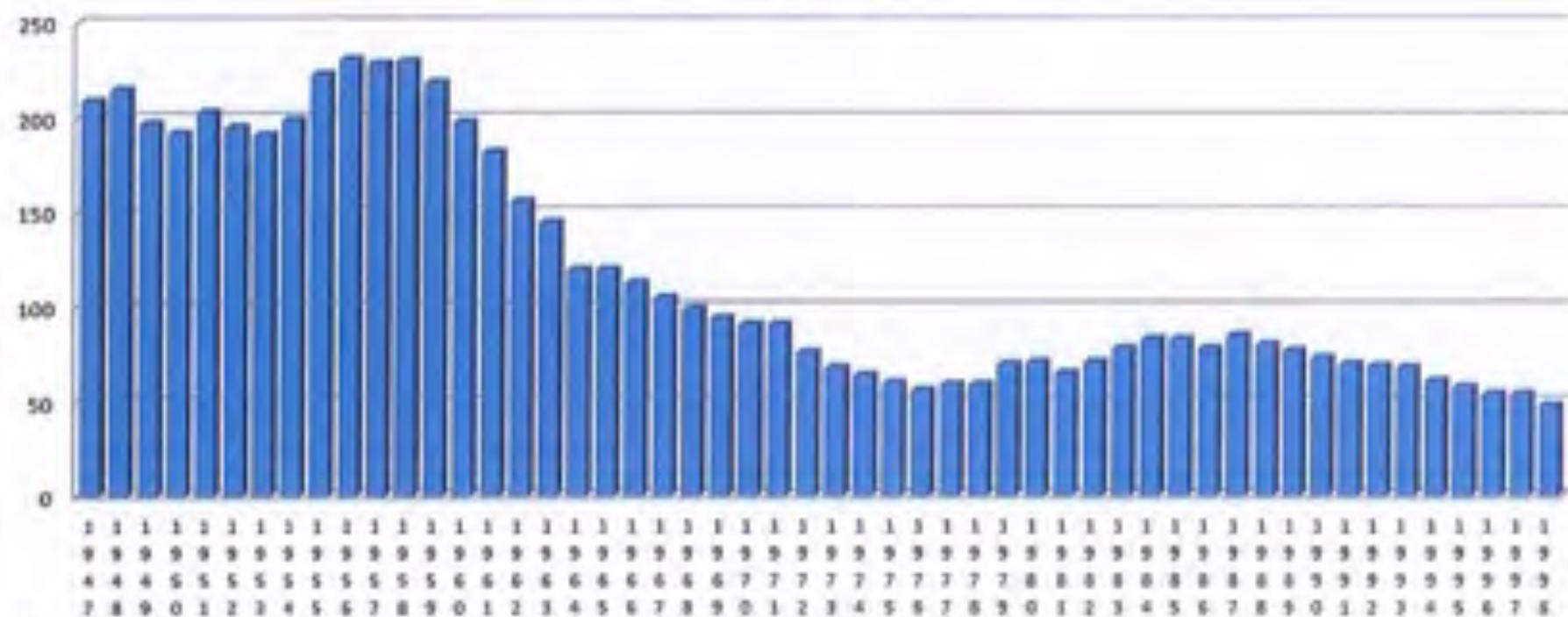


**2019 年8月
5大学インター
ゼミナール合宿予定**

**(福知山公立大学・京都産業大学・
小樽商科大学・
東北公益分科大学・島根大学)**



豊里西小学校 全校生徒数



綾部市における廃校活用事例

奥上林研修センター ↓

旧・奥上林小学校

旧・豊里西小学校

↓ 綾部市里山交流研修センター

旧・口上林小学校

↑ 黒谷和紙工芸の里

↑ 綾部市ふれあいの家

旧・豊里東小学校

(SOURCE) <http://www.ayabe-kirikou.net/images/system.jpg>



奥上林研修センター（←奥上林小学校）



黒谷和紙工芸の里（←口上林小学校）







どんな団体？

(2000 年度～2005 年度)

**里山ねっと・あやべ(任意団体)が
管理活用**

(2006 年度～)

**里山ねっと・あやべ(特定非営利
活動法人)が指定管理**

定 款

目 的

この法人は、綾部市の恵まれた自然環境や歴史、風土などの優れた地域資源を活用し学術、産業をも融和した新しい地域開発のあり方を研究し実践するため、舞台として里山空間がもっている「里山力」、「人財力」、「ソフト力」に支えられた都市農村交流から定住促進に向けて各種の事業を取り組むとともに次世代を担う青少年の健全育成を図り、地域の活性化に寄与することを目的とする。

定 款

活 動

- (1)まちづくりの推進を図る活動
- (2)経済活動の活性化を図る活動
- (3)環境の保全を図る活動
- (4)社会教育の推進を図る活動
- (5)学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (6)子どもの健全育成を図る活動
- (7)観光の振興を図る活動
- (8)農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (9)前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

定 款

事 業

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 都市農村交流事業
- ② 定住促進事業
- ③ 都市農村交流施設管理運営事業
- ④ まちづくりに関する人材育成研修事業
- ⑤ 景観・環境保全事業
- ⑥ 地域活性化のための企画・提案
- ⑦ 農村文化等振興事業

(2) その他の事業

- ① 宿泊・飲食事業
- ② 農林産物等販売事業

指定管理と運営組織

綾部市

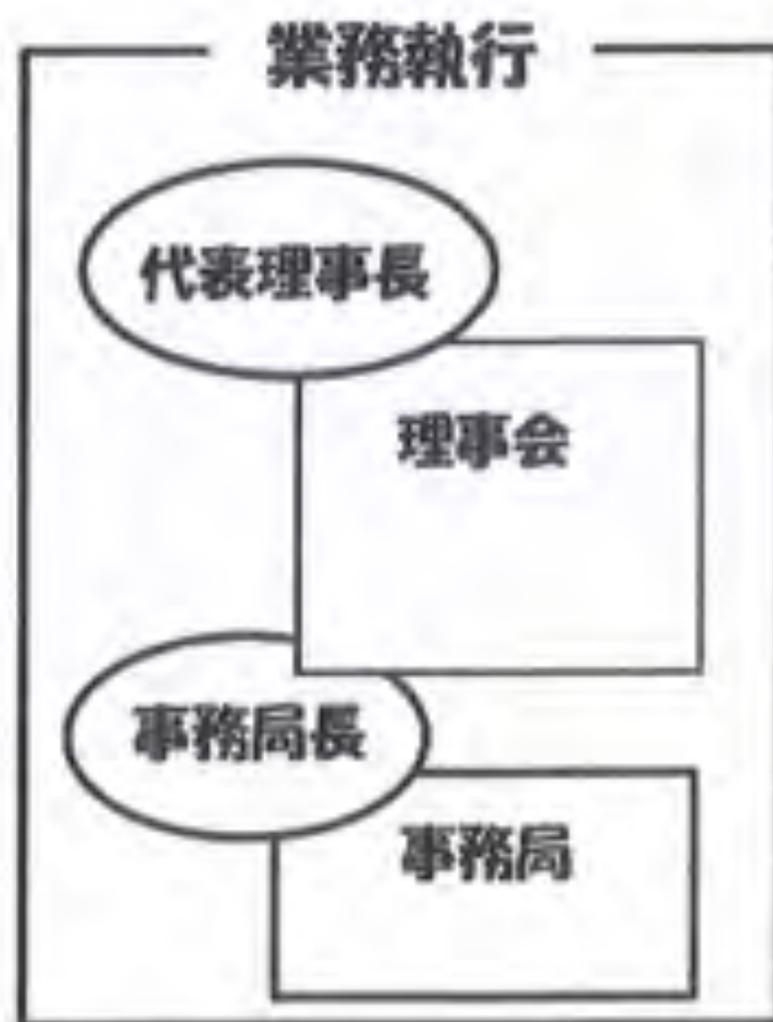
センターの
指定管理

定住交流部

├ 観光交流課 ○

├ 定住促進課

└ 水源の里・地域振興課



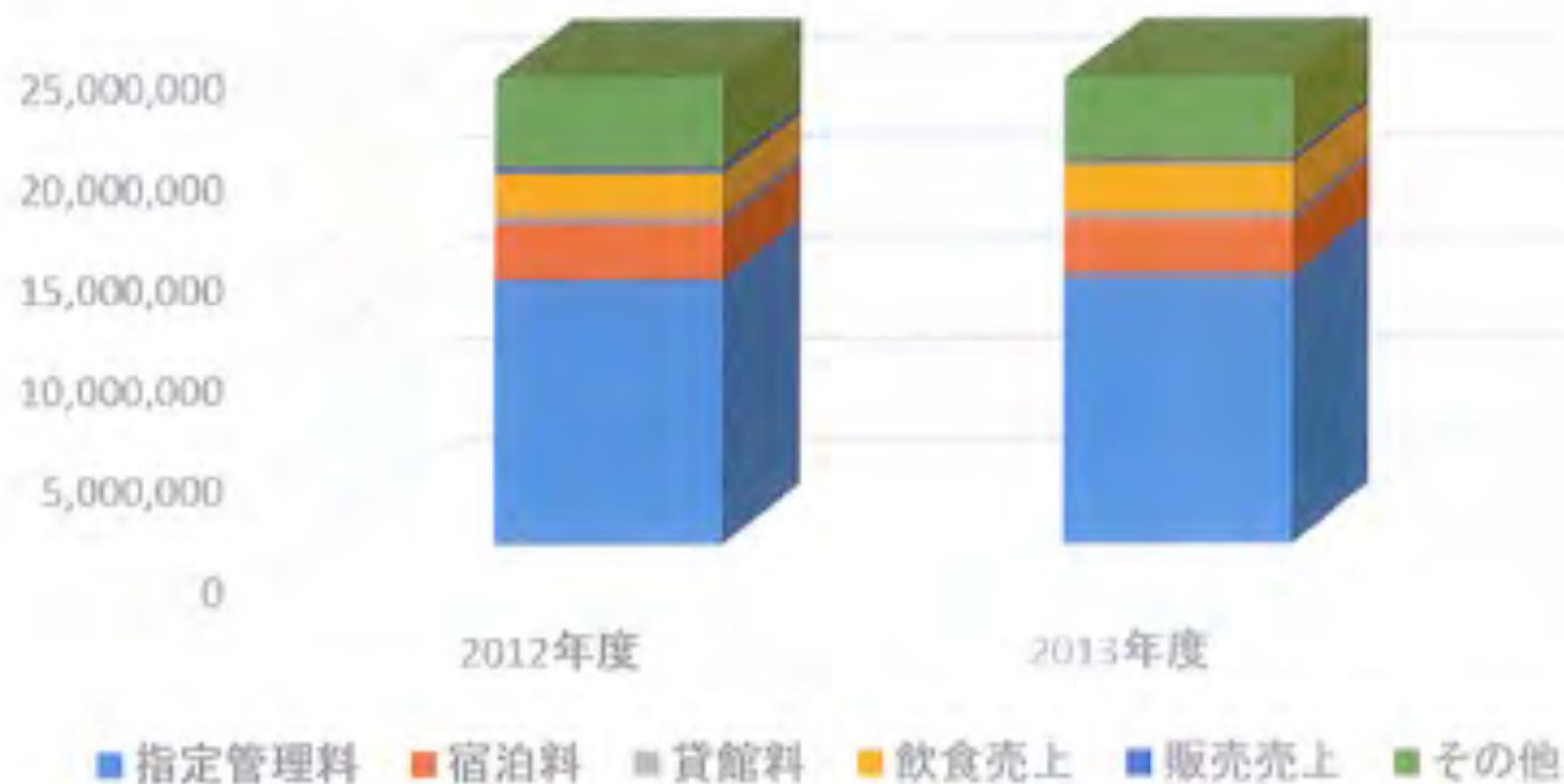
運営の人員

無給	非常勤	理事（18名）
有給	非常勤	調理、清掃、体験指導
有給	パート	事務職（3名）
有給	常勤	局長・次長（2名）

（参考）宿直は局長・次長と事務職1名（男性）

所管＝綾部市観光交流課

里山ねっと・あやべ収入構成

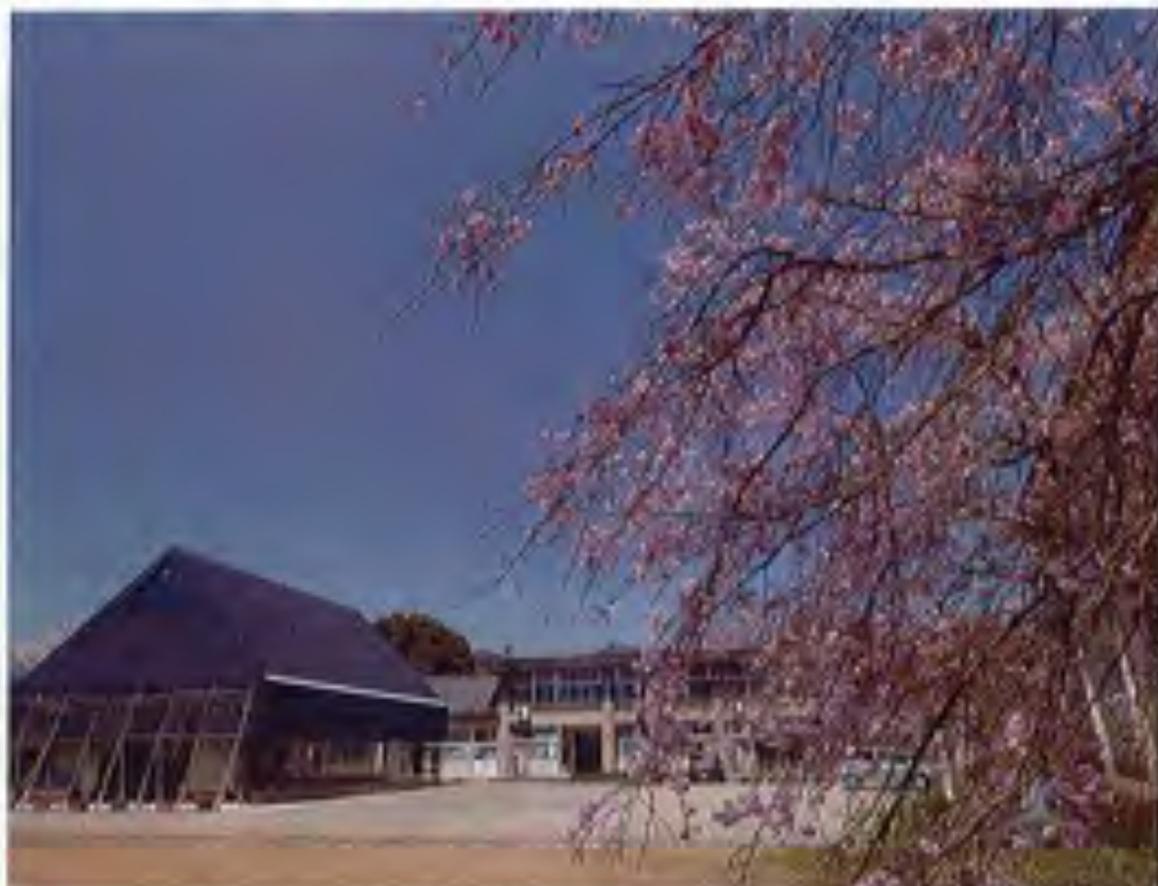




「森の京都」拠点のひとつとして

「森の京都」綾部市西部里山

交流エリアとして改装



将来を担う子供たちをメインターゲットとした、森林や里山・農村の機能や可能性を学び実体験できる交流拠点づくり

撮影＝朝倉 聡／「森の京都」綾部市マスタープラン



綾部市里山交流研修センター
2017年4月以降のイメージ

むぎ設計工房 提供



第1段階

……**立ち上げの時代（2000～）**

第2段階

……**宿泊施設化・指定管理（2006～）**

第3段階

……**森の京都に伴う改装（2017～）**



綾部里山交流大学

綾部暮らし入門



綾部でそば屋さんを
開業したかたの
お話しを聞く

大学と学生

【大学の利用事例】

- 京都大学(農学部)立命館大学(サービスラーニングセンター／産業社会学部)
- 京都府立大学(公共政策学部／生命環境学部／COC+) ○京都産業大学(法学部／現代社会学部) ○両国大学(政策学部) ○明治大学(文学部) ○獨協大学(外国語学部) ○福知山公立大学(アースデイボランティア)

京大生が茶業活性化策

綾部市で研究発表

京都府綾部市の茶産地の活性化策をテーマとして研究してきた京都大学農学部(農学)の学生が18日、綾部市内で地元茶農家を招き、成果を発表した。高

組合の連携重要

産地に歯止めがかからない組合同士の間を連携させる。Jいて一歩全体を推進する位利や生産者育成を特にしたるべき、と強調した。



発表したのは、食料・環境経済学43年の宮澤子さん(20)、小林寛晃さん(21)、白石茶津子さん(20)の3人。生産者が消費に至る農産物の産を学ぶ同学部の授業で、綾部市の茶をテーマに、3人が手分けして、農家や地元JA京都に、くは茶産センター、J全農京都茶市場、茶商などに聞き取り調査し、「二部における茶フードシステム」を明らかにした。この日は茶農家や綾部市役所職員など約20人を招いて、研究成果を発表。平均年齢が約歳と産地が進む現状を踏まえ、価格単位などを通じて共同利用するため、組織されている茶産組合

綾部の茶産地の活性化策をテーマとして研究してきた京都大学農学部(農学)の学生が18日、綾部市内で地元茶農家を招き、成果を発表した。

里山の魅力 壁新聞に

マスコミ業界への就職を希望する立命館大の2年生が、2月9日の日曜で綾部市綾部町の市里山交遊研修センターに滞在して周辺の地区を取材。1日、魅力や課題を壁新聞にまとめめて発表した。

マスコミ志望の立命大生 綾部で滞在取材

新聞やテレビ、出版、広く、目標を実現する力に自信をもち仕事を自覚する学生でもらおうと同大学が企画に、人と出会って情報を集め、文化、文学、産業社会、国際化する仕事の一環を体験 関係など7学部13人が3



綾部への取材をもちょうび制作した壁新聞を展示する学生たち

(左から)立命館大生、市里山交遊研修センター

情報発信の楽しさ実感

班に分かれ、12、13日に住民に取材してテーマを決め、紙面をまとめた。

茶の栽培が盛んな小西町を訪ねた班は「お茶でつながるコミュニケーション」の鬼出で紙面を制作。高品質な茶を生産するため、茶畑の維持や収穫などで住民が協力していることを紹介する一方、高齢化や後継者不足の課題にも触れ、深みのある記事に仕上げた。

綾部駅を歩いた班は田畑を巡らす班や、竹林が広がることによる山の浸食などを市にも取材してまとめた。小畑町を訪ねた班は自然と共存して暮らす住民の思いを聞き、里山の魅力や課題を考えたライフスタイルを提案。それぞれ人紹介や取材エピソード、お茶摘みバイト募集などの欄も設け、紙面を美しく工夫も加えた。

発表には、取材を受けた住民も訪れた。新聞社志望の法学部の酒井拓人さん(20)は「取材や紙面にまとめる作業が難しかったが、情報を見つけて発信する楽しさも感じた。ぜひ夢を実現したい」と話していた。

(左)酒井拓人



小畑祭り (小畑・鍛冶屋・小西3ヶ村の秋祭り)



綾部の文化財を守る会ブログより

<http://star.ap.teacup.com/ayabebunnkazai/190.html>

<http://star.ap.teacup.com/ayabebunnkazai/199.html>







みんなで作る 綾部市里山交流研修センター



裏山の遊歩道を
再生しよう



企業との協働

(グンゼ／かんぽ生命)



ガンゼモデルフォレスト

2014年(平成26年)4月6日

日曜日

13版▲

享月

日

葉斤

月日

丹後・丹波



ツツジ名所に案内看板

綾部 グンゼ新入社員が設置

裏山を整備し、その恵みを敷地に活かそう



老朽化したウッドデッキ (展望台・立入禁止)の修繕



【他団体との連携事例】

○綾部市内の農家民宿

⇒宿泊客や学生研修の受入

○あやべボランティア総合センター

⇒難病患者家族交流会の実施

○森の京都 DMO

⇒京都府中部の里山地域での観光交流

體驗指導者

四方英幹さん（日本茶インストラクター）



高倉敏明さん（地元ガイド、語り部）



京都ストーブ

山本大輔さん



大阪出身 薪ストーブ
の普及に尽力

検討課題

**施設の修繕／施設の導線／施設と
法令／雇用の安定性（指定管理4
年ごとに更新）・季節変動（繁忙期
と閑散期）／サービス業（火曜定
休、土日祝は仕事）／財政面／施
設改装に伴う維持経費**

【多様な主体間の調整】

京都府	綾部市	自治会
理事	監事	会員
調理・清掃	事務局	体験指導者
利用者	他の NPO	企業

綾部市のなかの位置【西端】

市の公共施設として

**交流の成果をいかに市全体
(水源の里を含む)に還元するか**



NPO 自体は旅行業を持っていないので旅行業者との連携も必要

里山ゲストハウスクチュール

工忠照幸さん・衣里子さん



大阪出身 旅行業に
詳しく外国人客多数

**なぜ、綾部市直営もしくは
自治会(地域協議会等)でなく**

NPO 運営か

(例)

- 綾部市全体の
交流施設的位置づけ
- 綾部市内外の人材確保
- ボランティアな志を活かす
- 経費節減？
- 直営にはない、法人の維持運営
の実務や契約協議などは伴う

指定管理者制度と NPO

- 特定非営利活動と営利活動
- 4年区切りと雇用の安定性(昇給等は無し)
- 最低限の人員しか積算されない
- 利益が出るようになると補助を減らされ得るシステム、且つ単年度の損益(長くて4年分の費用)で評価⇒利益を担保して投資していくためには会社組織との二本立てにするほかないかもしれない

行政からの補助金と NPO

人件費や備品への支出が認められない

「行政からの NPO 向けの仕事の多くが「利益を出すことを認めない」ものだ。行政向け見積もりに手数料や手間賃、利益の項目があることはほとんどない。コストと収入は相殺されるべきもので、違う見積もりを出すを受け入れてもらえない（場合が多数）。なぜか？それは行政がそうだから。毎年決まった額が自動的に入ってくる行政は、入と出を合わせないといけないし、そもそも利益を出す意味もない。しかし NPO は事業維持のためには投資（社員の給料を上げる、新しい PC を買う、etc）をし続けなくてはならず、利益はその原資となる。多くの行政ではそのことが理解されず、仕事を受ける NPO は不平等条約を結ばされる。

（工藤啓『NPO で働く』への駒崎弘樹レビュー）

意志形成の複雑さ

【根拠】

発起人(会員・理事)



活性化の志



NPOの形成



事務局の形成



交流施設の運営

【歴史】

小学校の閉校



市による施設設置



管理団体の形成



事務局の形成



法人化・理事会の形成

いち施設いち団体

綾部市里山交流研修センター	里山ねっと・あやべ
黒谷和紙工芸の里	黒谷和紙共同組合
あやべ温泉	緑土
あやべ観光案内所	綾部市観光協会
市内の体育施設	綾部市体育協会
あやべ特産館	綾部商工会議所
清山荘	あやべ福祉フロンティア

※それぞれに特性を発揮できる ※1対1のタイトな結合は柔軟性がなく変動の影響が大きい面もある(チャールズ・ペロー『ノーマル・アクシデント』)

新町商店街を活用した異世代間交流

川畑、古泉、志斉、田島、西宮、西山、秦



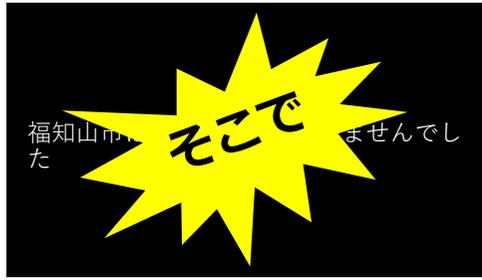
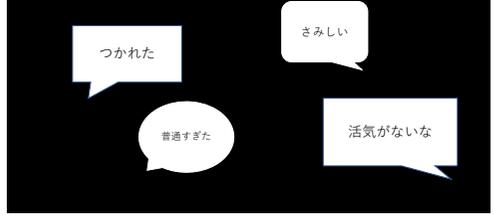
福知山をあるいてみた！

福知山をあるいてみた。(前)



新町商店街

福知山をあるいてみた。(後)



問題点

高齢者の一人暮らし世帯が増加…

高齢者世帯数の推移	1995 (平成7)年	2000 (平成12)年	2005 (平成17)年	2010 (平成22)年	2015 (平成27)年
65歳以上の高齢者の心世帯	11,448世帯	12,500世帯	15,005世帯	13,507世帯	14,438世帯
高齢者夫婦のみ世帯	2,098世帯	3,468世帯	3,079世帯	3,335世帯	3,828世帯
高齢者ひとり暮らし世帯	2,000世帯	2,487世帯	2,843世帯	3,381世帯	4,021世帯
一軒世帯に占める 65歳以上の世帯の比率	41.6%	42.4%	42.6%	45.9%	45.9%

2025年には5094世帯に！！

資料：国勢調査(2005(平成17)年度で第1回以降合計)

課題

- ①一人暮らしの高齢者の交流の機会が少ない。
⇒認知症、無気力、孤独になる

生きがいが感じられないのでは？

- ② 児童館や図書館が月曜日に休み
⇒子どもの居場所がない

中途半端

仮説

- ・人口流出
- ・高齢化
- ・交通網がなく不便

⇒課題①

高齢者と子どもが交流できる、居心地のいい場所

ふくのこ会

をつくる

ふくのこ会とは

- ・地域とのかかわりを持ちたい高齢者と、地域の子供たちが一緒に遊びやものづくりを通して交流ができる会。
- ・児童館や図書館の休館日(週1回)に開催。
- ・ターゲットは地域の高齢者と子ども(小中学生を想定)とするが、基本誰でも参加可能。
- ・制作物に必要な材料はなるべく各自で持ち寄り。(例：季節にあったものを作る、マフラーなど)

新町商店街で行う理由

- ・商店街はシャッター街で、人通りも少なく寂しい。
- ・週に1回のふくのこ会の交流の場が商店街の活気(福)を取り戻す。
- ・月に1回ワンダーマーケットが開催されている(人が多く集まる)
⇒ふくのこ会で作った物売る。
(例：あみもの、アクセサリー)

ワンダー

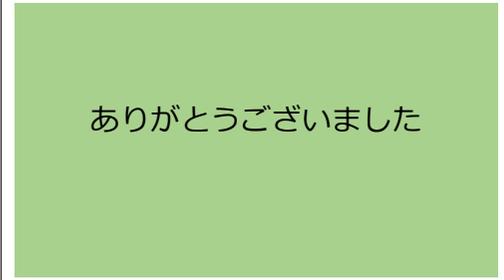
- ・毎月第4日
- ・市内外から集結する
- ・家族連れ

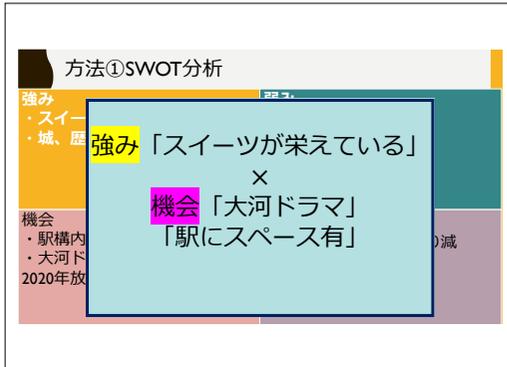
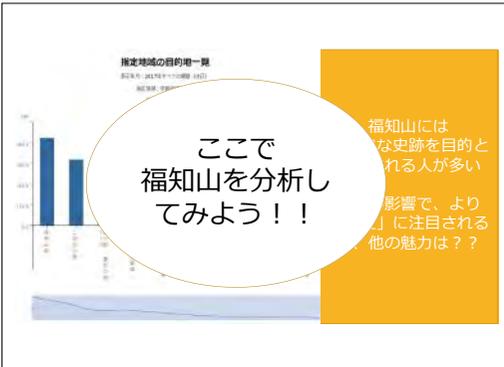


ワンダーマーケットのお店が

まとめ

- 商店街の活性化
- 高齢者が子どもとコミュニケーションをとることで楽しいと感じてもらうことで生きがいを見つける
- ものづくりを通して高齢者から学びながら楽しめる





①②から福知山市は
↓
スイーツ×大河ドラマによって、京都を訪れている観光客を市内にも呼び込むことができる
= 福知山の課題

福知山の課題
大河ドラマによって確実に訪れる観光客を通じて、スイーツの魅力も併せてPRすること
大河ドラマの放送終了後も、観光収入につなげるような仕組みを作ること

福知山駅で福知山の魅力が感じられない
・福知山駅には広大なスペースがあるのに、お土産を買って食べることができる場所がなく有効活用されていない。
・福知山に有名なスイーツ店はたくさんあるのに、そのお店のお土産がない。

スイーツ店の声
～三店舗に聞いてみた～
洋菓子マウンテン
駅構内で売るつもりはないお土産ではない
足立音商店
駅では売らない
→店舗にて説明したいから駅では販売しない。しかし、パネル掲示などで商品を紹介してほしい
おいしぶおん Oichiffon
駅構内で出店に前向き



駅構内で学生が作ったCM上映
→「学生が手掛けたCM」という珍しさを活かし興味を引き付ける映像にすることでインパクトがありターゲットの印象に残りやすくなる

解決策② スイーツクーポン
福知山の有名スイーツ店 × 大河ドラマの聖地入場券
↓
・聖地以外の魅力アピールが可能に歴史だけでなく、新たな福知山の魅力を知ってもらえる
・大河ブームが去った後も歴史以外のアプローチで福知山に足を運んでもらえる

期待される成果
・大河ドラマ効果で訪れた観光客に対して歴史以外の福知山の魅力を十二分に伝えることができる
↓
もし大河ブームが去っても、衰退しないまちづくりが実現できる。

ご清聴ありがとうございました。

福知山ばあ の ぶれぜん

流れ

- ・問題提起
- ・解決方法の提案
- ・ゴール
- ・具体的な内容
- ・効果

問題提起

大河ブームで、一時的に観光客は増加するが、
リピーターの確保は難しい説

ゴール

- ・福知山の人たちと光秀ファンの人たちの「つながり」が継続している状態。
- ・つながった人たちによって交流の輪が広がっていく状態。

政策

福知山の人たちの
光秀ファンに捧げる
光秀ファンのための福知山ツアー

具体的な内容

- ・対象
- ・計画
- ・協賛者

対象

福知山の
人たち

光秀ファン

計画

10:00～ 福知山城観光
11:00～ お城の下で
～13:00 由良野ガーデン
13:30～ 明智茶屋
～15:20 オーナーと話す!!
(16:00)

17:00～19:00

交流会!!!!!!
@市民交流プラザふくちやま

協賛者

JR 西日本

効果

「また行きたい」
「また来てほしい」

光秀ファンなら絶対に行くべき場所

また来てくれた時に、
もっと光秀様のことを知ってもらいたい

ご清聴ありがとうございました



老富町の交通危機を救え！

老富町について(平成27年10月現在)

人口 35人(男性：17人 女性：18人)
世帯数 17世帯
観光資源 シャガ、ミツマタ

*住民のほとんどが高齢者
(平成17年の高齢化率：約70%)

老富町が抱える現状

- 近隣に商業施設や病院などがなく、交通手段は自動車メイン
- 高齢化が進んでいる
- 人口減少が続いている

- 町民の声

リサーチクエスチョン

- 住民にとって交通手段が不十分ではないか。
- 今の財政状況では、公共交通を支えることが出来ないのではないか。

検証 綾部市役所ヒアリング調査

- 綾部市ではどのような公共交通機関が利用されているか。
→綾部市には「あやバス」という公共交通がある。
老富町への路線について
→上林線の於見から先の路線がない。
- 於見から先の地区では、NPO法人あやべ福祉フロンティアが公共交通の機能を担っている。
→運営費は市の補助金によりまかなわれている。

老富町民へのヒアリング調査

- 運転できる内はまだ大丈夫(^0^)
- →でも本当は、、、不便って思ってる。

二時はみんなげんきでした

NPO法人あやべ福祉フロンティア

設立：平成11年

事業内容



福祉移送サービス

2011年データによると、月間の利用者数はのべ約3500人で、運転ボランティアは約170名がこれにあたっている。

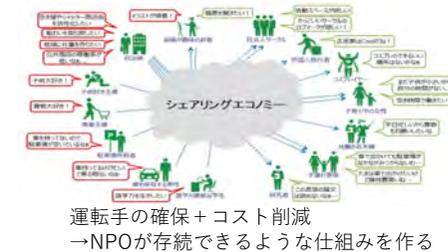
平成23年度の移送回数(綾部市全体)

合計 4 1 2 1 6 回

年会費 2 0 0 0 円+運賃1 0 0 0 円

ヒアリング調査から分かったこと

公共交通だけでは財政的に厳しい状況
→かといって、あやべ福祉フロンティアの財政も厳しい



福祉移送サービス

×
X

福祉移送サービス

×

コミュニティナース

「いつも地域の中において、健康的なまちづくりをする医療人材」

現在、綾部市では3名のコミュニティナースがサロン活動などを行っている。



コミュニティナースの地域巡回
と福祉移送サービスを一本化！

福祉移送サービス

×

お弁当配達

先進事例

- おもいやり弁当 琴里
香川県まんのう町(高齢化率36.1%)
お弁当×歯医者さん
高齢者向けに栄養バランスを考えた日替わり弁当を届けるサービス。
廃校スペースを利用し、地域の有償ボランティアによる弁当作成。
→やりがい

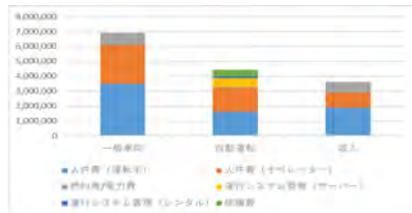
福祉移送サービス × 移動販売車

福祉移送サービス × 水道検針

福祉移送サービス × 宅急便

気づいたら数人戦闘不能になってました

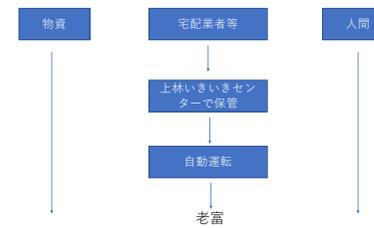
自動運転の実験的導入



自動運転と福祉移送サービスの相互連携



自動運転による物資等物流の効率化



ああ。。。外が明るい。。。

体験型観光をゆる〜く妄想する

- 自動運転に伴い繁忙期における一度に乗ることのできる観光客の数が減少する。
- この対策として、体験型観光を老富町や、上林いきいきセンターなどで行うことにより、一定の「外貨」を獲得することが可能となる。
- 岡林信康氏の声などを自動運転の音声機能として搭載してみても面白いかも・・・(誰?このおっさん?って思い、ググってみるかも・・・?)。。。これも観光。。。なのかな。。。?

- ・シャガ・ミツマタの群生地をフォトウエディングとかもできるかも・・・
- 自動運転車の後ろに空き缶なんかつけてみたりね
- せっかくフォトコンテストとかやってるんだからこういうこともやってみないと・・・!

- ・どんぐり畑って知ってます?ああ、そうそう韓国で冷麺!あれって板でも同じことできないのかな?あじき堂さんと研究してみたりして。。。ラーメンにするのならメンマの代わりにイタドリとか使ってもいいかな-(-)-y-
- 将来的にはそば打ちならぬ板打ち体験とかね!蕎麦と板のフェュージョンでラーメンが生まれると最高に意味わからなくない??

- ・民泊とかするんだったら外国人だったり料理をしない若い世代に向けて「Japanese Ohukuro no azi」とか!一緒に料理してみるとかもよさそうね!(英語にしてみたけどあんまり意味なかったです。)
 - ・ニッチなところで言ったら昭和の田舎風民泊とかできそうね。せっかく老富は山もあり川もありなんだから!仕事に疲れたおっさん世代とか子供になった気分で楽しめそうじゃない??
- こういったいろんなことが自動運転で物資を効率的に運送できるようになることで可能になったらいいね。

結論

- ・交通手段と財源を確保することで・・・

老富町民の交通の便が増えて、持続的に自由な移動が可能になるので、町民が安心できる社会を実現する。

おやすみなさい

次世代交通システムは水源の里を救うのか？

問題提起

水源の里では高齢化や人口減少による問題が顕著に表れている。中でも特筆すべきは、住民の交通手段の不足である。

代替手段として、綾部市では「NPO 法人綾部福祉フロンティア」による有償運転制度が行われているが一日3便しか運行されていない。また、これにかかる費用として年間6000円を一律（乗っても乗らなくても）で住民から徴収しているが、赤字が続いているため、何とか維持できているという状態だ。

そこで私達のグループでは、綾部市職員等へのヒアリング調査を行い、問題の適切な把握と改善策の提案。さらに新たな交通インフラを用いた戦略等を提案する。本紙はこれに付随する参考資料である。

手動運転と自動運転の比較

自動運転については国土交通省が13の地域で実証実験を行うなど、すでにデータが存在しているため、※1「中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験 資料2 自動運転サービスの採算性の検討事例」を参考に綾部市での適用が可能かを検討していく。

(資料1)

H.27 年度於見市野瀬線利用客数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
605	635	644	623	586	578	636	628	684	624	588	599
合計											
7,430											

綾部市市民協働課より提供 あやバス路線別乗車実績より引用

資料1から読み取ることができる問題点は、3月・4月・5月が、老富におけるシャガとミツマタ観光のピーク期であるにもかかわらず、他の月と比較してバスの利用者数の変化がそこまで見られないということだ。多少の増減はあるものの、於見市野瀬線における中で目立って大きな変化はない。それは老富・綾部に観光に訪れる観光客が、市が運営するあやバスを使わずにマイクロバスや車で来てしまい、綾部にそのまま向かってしまっていて観光地で降りず、実際に観光地でお金をおとしにくい状況を作ってしまったと推測できる。

(資料2)

一般車両と自動運転の比較

於見市野瀬線 上林いきいきセンター前～於見に加え、老富休憩所まで延線した場合に係る諸費用の簡易図

(年間)		支出		
		一般車両 (あやバス等)	自動運転 (有償ボランティア)	
人件費	運転手	3,500,000	1,600,000	
	オペレーター	2,600,000	1,600,000	
燃料費/電力費		796,917	78,779	
運行システム管理		—	サーバー	600,000
			レンタル	120,000
その他 ※a		—	1,000,000	

(年間)	人数	収入
上林いきいきセンター - 於見間 における推定利用者数	4218	632,700
老富町における推定利用者数	730	109,500
観光客数 (滋野教授による推定数 5000 人) 内 1000 名を自家用車と仮定した場合	4000	1,200,000
農作物等輸送	—	1,500,000
宅配・宅食サービス	—	
差額	一般車両	-5,520,166
	自動運転	-1,556,579(車両費 等除く)

※1 試算の前提条件を参考 筆者編集

(資料3)

試算根拠 簡易

(支出)	一般車両	自動運転
人件費	乗員1 オペレーター1の場合	
	乗務員	乗務員
	オペレーター	オペレーター
	3,500,000 円 ※2 より仮定	1,600,000 円 ※5
	2,500,000 ※3 より仮定	1,600,000 円 ※5
減価償却	—	今後要検討
燃料費/電気代 於見市野瀬線 上林いきいきセンター前～ 於見に加え老富休憩所周辺 まで延線した場合の距離	ガソリン代：年間走行キロ÷燃 費×ガソリン価格 54750÷9km/L×131 円/L 日※4 年間走行距離 54750km (路線 15km×10 本×365 日)	電力使用料：往復 1.48kw/h×5 往復×365 日×電力 単価 25 円 /kWh ※5
運行管理/システム費	—	デマンドシステム運営費 (サー バ費用)：50,000 円/月×12 か 月※5 遠隔監視機材レンタル費： 10,000 円/月×12 か月※5
諸経費※a	—	1,000,000
車両修繕費※a	—	
利子※a	—	

※a 1,000,000 円をその他にかかる費用と仮定し計上

自動運転では手動運転のプロフェッショナルである必要がなく、負担の大幅な軽減が予測されるため、有償ボランティアでも可能であると判断。

収入

(収入)	
上林いきいきセンター - 於見間 における推定利用者数	市野瀬方面 五泉,五津合の合計人口 478 人から 老富,光野,故屋岡,睦寄,五泉,五津合の合計 人口 842 人を割ることで、利用者内におけ る老富方面割合を算出。バスの年間利用者

	数とかけることで、上林いきいきセンター～老富における利用者を算出。
老富町における推定利用者数	路線が延線されることにより、1日あたり1名が往復で利用すると仮定し、算出
観光客数	年間約5000名が観光に訪れると推測され、内1000名が延線後も自家用車を利用すると仮定した場合
農作物等輸送	※1 初年度年間支出入の比較 商品配送金額から仮定
宅配・宅食サービス	

参考文献

※1：国土交通省 中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス実証実験資料2 自動運転サービスの採算性の検討事例（2019/8/29 現在）

(https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_001109.html)

(http://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/automated-driving-FOT/pdf_181217/2.pdf)

※2：タクシー転職のきっかけ

(<https://www.taxi-tensyoku.com/>)

※3：マイナビ転職

(<https://tenshoku.mynavi.jp/kansai/list/c26203/o1D405/>)

※4：e燃費 レギュラーガソリン価格の推移（2019/8/30 現在 レギュラー価格131.1円）

(https://e-nenpi.com/gs/price_graph)

※5：具体的な資料が不足しているため、※1 参考 試算根拠 支出から引用

綾部 ぱー

発表の流れ

- ・メンバー紹介
- ・「綾部市」の現状
- ・私たちの課題(テーマ)
- ・課題の動機
- ・解決策、政策案
- ・提案する根拠、得られる効果
- ・まとめ

メンバー紹介

- ・黒熊 航平(福知山公立大学)
- ・藤原 尚大(福知山公立大学)
- ・山名 恒輝(京都産業大学)
- ・平野 萌(島根大学)
- ・中野 彩香(小樽商科大学)
- ・藤原 諒弥(小樽商科大学)
- ・阿部 文音(東北公益文科大学)

「綾部市」の現状

- ・人口 32,245人
- ・出生率 1.63%
(京都府で6番)
- ・面積 347.10km²
- ・世帯数 13,753世帯



「綾部市」の現状 フィールドワークより

- ・空気、水といった環境がきれい
- ・地域の多くが、「子供は地域の宝」という考え方を持っている

「綾部市」の現状 フィールドワークより

- ・公園などの遊び場が少ない
- ・子供の同世代が少なく、世間が狭くなる

「綾部市」の現状

- ・乳幼児の子育て活動に補助金を支援
- ・就学前の親子が昔の遊び、歌などを体験する場を運営
- ・幼、小、中学生と高齢者が故郷の遊びを通して触れ合う場を運営

私たちの課題(テーマ)

子育てしやすい環境づくり

課題の動機

- ・市街地に公園が少ない(自動車を使用しないといけない)
- ・ヒアリングに向かった家庭のお子さんの学年が4人しか生徒がいない。
- 親しいがゆえに自分を表現できなくなっている。

解決策、政策案 半ママ半X!!

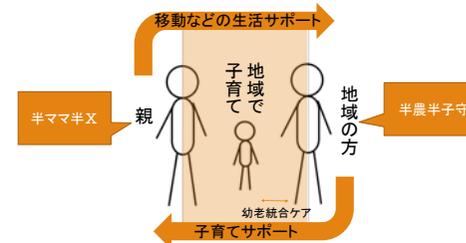
目的:子育て世代の親、高齢者の両者の生活の充実を狙う。

対象者:子育てしている親、子供、高齢者

対象地:綾部市東部の山間地域

運営主体:地域行政

地域協力者募る → PR → 子育て世代移住 → 実施



提案する根拠、得られる効果

<直接効果>

- ・親の自己実現
- ・高齢者の移動の自由
- ・子供のコミュニケーション能力の向上

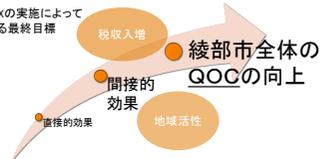
提案する根拠、得られる効果

<間接効果>

- ・子育て世代(若者)の移住者の増加
- ・高齢者の孤立の防止
- ・地域コミュニティの拡大
- ・税収入の増加

まとめ

半ママ半Xの実施によって達成される最終目標



ご清聴ありがとうございました



綾部市チヨキチーム・小林・近藤・四宮・讃岐・吉田・田邊

目次

- ▶綾部市の概要
- ▶ヒアリング
- ▶提言
- ▶まとめ



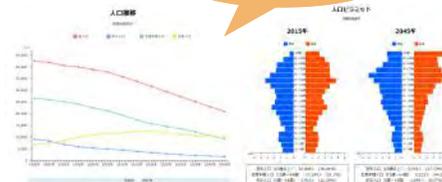
綾部市の概要

～住んでよかったゆつたりやすらぎの田園都市・綾部～

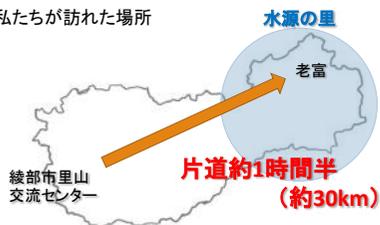


- ・養蚕業が盛ん
- ・繊維メーカー「ガンゼ」の誕生地
- ・市街地には老舗の料理旅館や和菓子屋が存在
- ・趣のある街並み
- ・豊かな自然に恵まれた里山が山あい広がる
- ・「半農半X」を実践する人が多い

綾部市の概要



私たちが訪れた場所



水源の里の理念

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」

ヒアリング

水谷さん 千葉県木更津市 奥さんと2人で1ターン

仕事は？
集落支援員・農家民宿の経営

移住を決めた理由は？
市役所の対応がよく、物件が理想とマッチした

ヒアリング

酒井さん 綾部市老富 定年後Uターン

なぜ帰ってきたのか？
母が一人暮らしになり、定年後もやりがいを持って生活したかった

地元に戻ってきてよかったことは？
NPOのボランティアで若い人との交流ができること

ヒアリング

西田さん 綾部市老富 水源の里連絡協議会会長

移住定住の現状は？
定住者促進住宅が2戸ある
2戸とも埋まっていたが、進学などの関係で2戸とも空きに
4月から新たな家族が入った

不便なことは？
病院・買い物などの交通の便が悪いこと

ヒアリングに対する私たちの答え

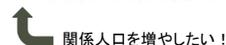
定住者促進住宅に移住者が来たが、
進学などの関係で2戸とも空きに
→移住はされるが住み続けるまでのハードルは高い

若い人との交流が楽しい
→関係人口を増やすことで、地元住民の楽しみも増える

私たちが考える水源の里ですべきこと

現状、空き家が綾部市には十分にある

デュアルライフをおくれる自治体へ



提言

デュアルライフがおくれる自治体をつくる！

デュアルライフ=二域居住

具体的提言

デュアルライフでは、田舎に泊まれるだけでなく、水源の里の色々な取り組みを体験できる。
また、都会で学んだ知識や技術を講演する会を開くことができる。
月額3万円。

デュアルライフ予約サイトの作成。
地域の方は、水源の里で体験できる取り組みを入力可能。
デュアラ-（デュアルライフをする人）は、体験予約、宿泊予約、地域貢献予約が可能。
地域貢献予約＝デュアラ-が里の人へ都会で学んだ知識や技術を講演する会を開く日時、場所を予約。

デュアルライフ予約サイト 水源の里ネット

会員大津様

体験予約

- 9/1 老富 -振もちづくり
- 9/1 石屋 -振の裏入りおきづくり
- 9/2 草壁 -農業体験
- 9/3 光野 -特産品開発

宿泊予約

地域貢献予約

日時: [] 場所: [] 講義名: []

講義内容: []
その他: []

まとめ

移住してきたのに定住にならない現状



移住よりハードルの低いデュアルライフを推進



関係人口が増え、住民とデュアラ-相互の幸福度が高まる